



キリストこそ我が救い 日本基督教団日本伝道150年記念大会

日本基督教団日本伝道150年記念大会が、11月23日(月)青山学院講堂を会場に「キリストこそ我が救い」の主題のもと開催された。出席者は、約1500名、聖歌隊等を加えると1600名、日本伝道の歴史に大きな印を刻む集会となった。「不振・低迷が指摘される日本伝道が新しい時代を切り開く分岐点となるのではないか」と、準備委員の一人がもたらした。そのような期待を抱かされる熱気が会場に溢れていた。

10時からの午前部、青山学院大学オルガニスト齋藤子氏による演奏が高らかに奏でられ、長崎哲夫東京教区議長が司式で礼拝が始められた。コリント一1章18、25節が朗読される。司式者の力が入った祈禱、更に韓国で最も歴史ある教会であるセムナン教会から海を越えて駆け付けたイエボン讚美隊60名による奉唱が、いやが上にも記念式典の雰囲気盛り上げた。

説教は小島誠志前教団議長による「宣教という愚かな手段」。「人は上を目指すのが、キリストは十字架への道、低きに下る道を歩まれた」と語り、100匹の羊の譬えから、主は迷子の羊が彷徨った茨や雑草だらけの、その同じ道を歩まれた」と語り、5000人のパンの出来事を挙げて、「主はあなたがたの手で食べ物をおげなさい」と言われた。弱い者に、弱者を通して語られるのが神の宣教の仕方である」と指摘し、更に、種時きの譬えを引いて、無駄になった沢山の種がある。伝道は多くが失敗に終わるかも知れない。しかし、芽を出す種もある」と、こども「愚かな手段による伝道」について述べた。

1600名による讚美、そして日本基督教団信仰告白は、単に人数が多いと言っただけではなく、御言葉に出会い慰めと励ましを受けた者の、圧倒的な迫力をもつて歌われ、唱和され、更に会衆互いの心を揺り動かした。

礼拝後は、山北宣久教団議長による感謝と激励の挨拶、国内外からの来賓による祝福の挨拶があった。午後部、1時30分、4時は、綱中彰子ペテル教会牧師の司会により、記念式典が執り行われた。

青山学院大学聖歌隊による美しい奉唱の後、長くこのことのために時間と思いつつ、時代の証言者たち」を捧げてきた小林貞夫記念行事準備委員会委員長が挨拶に立った。日本伝道150年に当たり教団が企画した三つの集会、6月24日富士見町教会で行われた「創立記念礼拝」その後の50年以上奉仕した教職の表彰、11月22日東京山手教会で開催された、実に40年振りの全国信徒大会、そして青山学院講堂でのこの日の集会を、感慨をもって振り返り、大きな恵みを与えられた喜び・感謝を、時に涙みながら率直に披露した。

東京信徒会の編集になる「イエス・キリストを証する」。時代の証言者たち」を捧げてきた小林貞夫記念行事準備委員会委員長が挨拶に立った。日本伝道150年に当たり教団が企画した三つの集会、6月24日富士見町教会で行われた「創立記念礼拝」その後の50年以上奉仕した教職の表彰、11月22日東京山手教会で開催された、実に40年振りの全国信徒大会、そして青山学院講堂でのこの日の集会を、感慨をもって振り返り、大きな恵みを与えられた喜び・感謝を、時に涙みながら率直に披露した。

と題した記念映像を観て、150年の歩みを支えた先達たちに思いを向けさせられた。次は、橋本徹氏(国際基督教大学理事長、聖ヶ丘教会員、元富士銀行頭取)の講演「伝道における信徒の役割」を聴いた。氏は50分の講演の前半で、郷里・母教会である岡山県高梁の伝道の歴史を述べ、そこで働いた人々、大きな影響を与えた指導者たちを数え上げた。後半は、その土地・教会で育まれた自分の信仰について語った。淡々と語り口にも、郷里、教会、人々への熱い思いが伝わった。一つの伝道が拓かれた、教会が建てられ、そして100年を越えて歴史が積み上げられる時、そこには多くの人々の信仰生活が織り込まれる。奇跡とも見える出来事が重なられ、そして今、橋本徹という一人の信仰者にながっているのだということを噛み締めさせられた。

必要を説き、さらに一人ひとりが伝道の業に参加する道を具体的に示した。最後に、伝道する教会はまず、伝道の主体である神を、あがめ、神は再び教会員を各地に派遣して伝道の果実を刈り取らせる。この健やかな循環が日本伝道を導く」と力強く結んだ。

また、講演の合間には、北陸学院大学ハンドベルリコーズや石川地区婦人有志によるシャロン・クワイヤによる讚美もさざざらね、北陸の諸教会と学校全体で150年を記念し、主の伝道命令に込める決意を新たにするとした。

1600名による讚美、そして日本基督教団信仰告白は、単に人数が多いと言っただけではなく、御言葉に出会い慰めと励ましを受けた者の、圧倒的な迫力をもつて歌われ、唱和され、更に会衆互いの心を揺り動かした。

礼拝後は、山北宣久教団議長による感謝と激励の挨拶、国内外からの来賓による祝福の挨拶があった。午後部、1時30分、4時は、綱中彰子ペテル教会牧師の司会により、記念式典が執り行われた。

青山学院大学聖歌隊による美しい奉唱の後、長くこのことのために時間と思いつつ、時代の証言者たち」を捧げてきた小林貞夫記念行事準備委員会委員長が挨拶に立った。日本伝道150年に当たり教団が企画した三つの集会、6月24日富士見町教会で行われた「創立記念礼拝」その後の50年以上奉仕した教職の表彰、11月22日東京山手教会で開催された、実に40年振りの全国信徒大会、そして青山学院講堂でのこの日の集会を、感慨をもって振り返り、大きな恵みを与えられた喜び・感謝を、時に涙みながら率直に披露した。

東京信徒会の編集になる「イエス・キリストを証する」。時代の証言者たち」を捧げてきた小林貞夫記念行事準備委員会委員長が挨拶に立った。日本伝道150年に当たり教団が企画した三つの集会、6月24日富士見町教会で行われた「創立記念礼拝」その後の50年以上奉仕した教職の表彰、11月22日東京山手教会で開催された、実に40年振りの全国信徒大会、そして青山学院講堂でのこの日の集会を、感慨をもって振り返り、大きな恵みを与えられた喜び・感謝を、時に涙みながら率直に披露した。

と題した記念映像を観て、150年の歩みを支えた先達たちに思いを向けさせられた。次は、橋本徹氏(国際基督教大学理事長、聖ヶ丘教会員、元富士銀行頭取)の講演「伝道における信徒の役割」を聴いた。氏は50分の講演の前半で、郷里・母教会である岡山県高梁の伝道の歴史を述べ、そこで働いた人々、大きな影響を与えた指導者たちを数え上げた。後半は、その土地・教会で育まれた自分の信仰について語った。淡々と語り口にも、郷里、教会、人々への熱い思いが伝わった。一つの伝道が拓かれた、教会が建てられ、そして100年を越えて歴史が積み上げられる時、そこには多くの人々の信仰生活が織り込まれる。奇跡とも見える出来事が重なられ、そして今、橋本徹という一人の信仰者にながっているのだということを噛み締めさせられた。

必要を説き、さらに一人ひとりが伝道の業に参加する道を具体的に示した。最後に、伝道する教会はまず、伝道の主体である神を、あがめ、神は再び教会員を各地に派遣して伝道の果実を刈り取らせる。この健やかな循環が日本伝道を導く」と力強く結んだ。

また、講演の合間には、北陸学院大学ハンドベルリコーズや石川地区婦人有志によるシャロン・クワイヤによる讚美もさざざらね、北陸の諸教会と学校全体で150年を記念し、主の伝道命令に込める決意を新たにするとした。

必要を説き、さらに一人ひとりが伝道の業に参加する道を具体的に示した。最後に、伝道する教会はまず、伝道の主体である神を、あがめ、神は再び教会員を各地に派遣して伝道の果実を刈り取らせる。この健やかな循環が日本伝道を導く」と力強く結んだ。

また、講演の合間には、北陸学院大学ハンドベルリコーズや石川地区婦人有志によるシャロン・クワイヤによる讚美もさざざらね、北陸の諸教会と学校全体で150年を記念し、主の伝道命令に込める決意を新たにするとした。

必要を説き、さらに一人ひとりが伝道の業に参加する道を具体的に示した。最後に、伝道する教会はまず、伝道の主体である神を、あがめ、神は再び教会員を各地に派遣して伝道の果実を刈り取らせる。この健やかな循環が日本伝道を導く」と力強く結んだ。

過去から未来へと私たちが接続させる プロテスタント日本伝道150年「北陸のつどい」

プロテスタント日本伝道150年北陸のつどいが、11月2日夜、金沢教会で開かれた。これは、中部教区の北陸側の教会と北陸学院で実行委員会(横井伸夫委員長)を作って準備し献金をささげ、中部教区も支援して開かれたもの。冷たい雨のなか富山、石川、福井の三県の諸教会から152人が参加した。

つどいでは、梅染信夫氏(北陸学院大学講師)と関川泰寛氏(東京神学大学教授)が講演した。「北陸伝道のはじまり」と題して講演した梅染氏は、北陸伝道の「二人の恩人」として、トマス・ウィントンとダニエル・マッケンジーの二人の宣教師の働きを紹介した。

米国長老教会の宣教師だったウィンは1877年に来日。「仏教王国」「真宗王国」ともいわれる北陸・金沢の状況を聞いて、このよな地方こそ、おのが生涯をささぐべきところであると考へ金沢で伝道を開始し、金沢・富山などに教会・講義所を立てた。さらに、婦人宣教師を招いて金沢女学校(北陸学院の前身)を開校させた。

一方、マッケンジーはカナダ・メソジスト教会の信徒説教者として来日し、旧制四高で教えながら、1890年のメソジスト教会金沢部の創設に尽力、その後宣教師となりメソジスト教会北陸部会長を15年務めて北陸の諸教会の礎を築いた。

梅染氏は、宣教師や信徒が受けた迫害の事例や、長老教会とメソジスト教会が互いを尊重し時には協力しながら伝道を進めた事例を挙げたうえで、「北陸の教会が立てられたのは人知をはるかに超えた主の伝道の力によるものだ」と結んだ。「プロテスタント伝道の過去と未来」と題して講演した関川氏は、アウグスティヌスがマタイ28章19節の主の伝道命令に生涯従った、とした上で、「歴史は持っているだけでは何の役にも立たないが、主の伝道命令は少しも色あせない」とし、「伝道は、三位一体の神の命令であり、この神の言葉に対する信頼ゆえの宣教であり讚美だ」と語った。そのうえで、「プロテスタント伝道150年の祝賀は、過去から未来へと私たちが接続させる意義を教える機会だ」と述べた。そして、「教会が御言葉の純粋な説教と聖礼典の正しい執行というしるしを帯びた信仰共同体である」というプロテスタント教会のアイデンティティを確認して一致協力する、伝道態勢形成の

必要を説き、さらに一人ひとりが伝道の業に参加する道を具体的に示した。最後に、伝道する教会はまず、伝道の主体である神を、あがめ、神は再び教会員を各地に派遣して伝道の果実を刈り取らせる。この健やかな循環が日本伝道を導く」と力強く結んだ。

また、講演の合間には、北陸学院大学ハンドベルリコーズや石川地区婦人有志によるシャロン・クワイヤによる讚美もさざざらね、北陸の諸教会と学校全体で150年を記念し、主の伝道命令に込める決意を新たにするとした。

必要を説き、さらに一人ひとりが伝道の業に参加する道を具体的に示した。最後に、伝道する教会はまず、伝道の主体である神を、あがめ、神は再び教会員を各地に派遣して伝道の果実を刈り取らせる。この健やかな循環が日本伝道を導く」と力強く結んだ。



セムナン教会イエボン讚美隊

つどいでは、梅染信夫氏(北陸学院大学講師)と関川泰寛氏(東京神学大学教授)が講演した。「北陸伝道のはじまり」と題して講演した梅染氏は、北陸伝道の「二人の恩人」として、トマス・ウィントンとダニエル・マッケンジーの二人の宣教師の働きを紹介した。

米国長老教会の宣教師だったウィンは1877年に来日。「仏教王国」「真宗王国」ともいわれる北陸・金沢の状況を聞いて、このよな地方こそ、おのが生涯をささぐべきところであると考へ金沢で伝道を開始し、金沢・富山などに教会・講義所を立てた。さらに、婦人宣教師を招いて金沢女学校(北陸学院の前身)を開校させた。

一方、マッケンジーはカナダ・メソジスト教会の信徒説教者として来日し、旧制四高で教えながら、1890年のメソジスト教会金沢部の創設に尽力、その後宣教師となりメソジスト教会北陸部会長を15年務めて北陸の諸教会の礎を築いた。

梅染氏は、宣教師や信徒が受けた迫害の事例や、長老教会とメソジスト教会が互いを尊重し時には協力しながら伝道を進めた事例を挙げたうえで、「北陸の教会が立てられたのは人知をはるかに超えた主の伝道の力によるものだ」と結んだ。「プロテスタント伝道の過去と未来」と題して講演した関川氏は、アウグスティヌスがマタイ28章19節の主の伝道命令に生涯従った、とした上で、「歴史は持っているだけでは何の役にも立たないが、主の伝道命令は少しも色あせない」とし、「伝道は、三位一体の神の命令であり、この神の言葉に対する信頼ゆえの宣教であり讚美だ」と語った。そのうえで、「プロテスタント伝道150年の祝賀は、過去から未来へと私たちが接続させる意義を教える機会だ」と述べた。そして、「教会が御言葉の純粋な説教と聖礼典の正しい執行というしるしを帯びた信仰共同体である」というプロテスタント教会のアイデンティティを確認して一致協力する、伝道態勢形成の

必要を説き、さらに一人ひとりが伝道の業に参加する道を具体的に示した。最後に、伝道する教会はまず、伝道の主体である神を、あがめ、神は再び教会員を各地に派遣して伝道の果実を刈り取らせる。この健やかな循環が日本伝道を導く」と力強く結んだ。



小島誠志牧師による祝禱、左は司式の長崎哲夫牧師

日本伝道150年記念大会宣言
2009年11月23日

- 一、イエスをキリストと信ず。
- 一、聖書を神の言葉と信ず。
- 一、キリストの体なる教会を信ず。
- 一、福音の恵みに与った者として、礼拝を守り、聖書を読み、祈る霊的な信仰生活に励む。
- 一、神の救いに与った者として、日本伝道に励む。

宣言文のみ抜粋、前文は省略。



冷たい雨の中、北陸3県から金沢教会に集い

(新報編集部報)

世界に開く教団の目と耳となつて

第3回世界宣教委

第36総会期第3回世界宣教委が10月30日、教団事務局を訪れる世界各地からの訪問者、各地に派遣されている宣教師について報告や対応すべき状況、国内で活躍している宣教師



適確な判断と行動が求められる

の受け入れや働きについて報告、それに加えて6つの関係委員会の報告など、世界に開かれていく教団の目と耳となつて、そこで動いている人と出来事について適確な判断と行動が求められる。

今回、報告された事柄の中で、日本が開催国となるため準備を進めている韓国・スイス・日本の三國間協議会開催について、予定された日程を延期し2011年7月開催に向けて調整中であること、韓国協約委員会からは、宣教協約を結んでいる韓国三教団を9月に訪問したこと(新報4685号に既報)などが報告された。

また、日本伝道150年記念行事のために来賓として、

「教団とは一定の距離を置く」と意味不明なことを言う沖繩教区が、教団一般会計の沖繩宣教連帯金や教区活動連帯金は、何も言わずに受け取っている事実。

1995年1月17日の阪神淡路大震災の第2次募金等、兵庫教区がその会計報告を今だ明らかにせず、数千円以上の教団財政を曖昧にさせている等が理由である。

は、他教区の決議をどうしようとするのか。それを誰もが直接

東京 東京教区の連帯金 留保問題

長崎哲夫

東京教区総会が、二〇〇九年度教区活動連帯金の納付を留保する」を決議したことについては、多くの批判がある。

それは十分聞くとしても、東京教団17教区との「主にある真の連帯と共闘」を願っているものであることに些かも変わりはない。何故我々がそう言うのか。

1994年第52回東京教区総会が着させた三里塚教会問題を、一部常議員や他教区が常議員会等

教区 コラム

で公的に批判する。「教団とは一定の距離を置く」と意味不明なことを言う沖繩教区が、教団一般会計の沖繩宣教連帯金や教区活動連帯金は、何も言わずに受け取っている事実。

1995年1月17日の阪神淡路大震災の第2次募金等、兵庫教区がその会計報告を今だ明らかにせず、数千円以上の教団財政を曖昧にさせている等が理由である。

は、他教区の決議をどうしようとするのか。それを誰もが直接

月11日担任委員会において応募者の面接をしたうえ推薦することにしたこと、前総会期委員会より今会期中にカナダ・ドイツへの退任宣教師訪問ツアーを実施するようとのことで、今年10月中に実施の予定であったが、日本伝道150年記念の行事、「スイス・韓国・日本三國協議会」などの日程のことを考慮し、今会期中に行うことは無理であると判断し、この計画は中止することにしました。

カナダ、ドイツともに熱く期待している退任宣教師がいるので、次期委員会に最優先事項として再度計画することを提案することとした。

(秋山徹報)

2009年度全国教会学校クリスマス献金のお願い

日本基督教団教育委員会委員長 黒田若雄

クリスマスを迎えるにあたり、主の恵みのもと、宣教の業に励んでおられることと思います。

わたしたちは「みんなで生きよう」との主題のもと、世界と日本で子どもたちと共に生き、喜びと苦しみを一緒にしようと、多くの子どもたちの協力を得てクリスマス献金をささげてきました。今年も以下のような計画を立てました。ご協力をお願いいたします。

《募金計画》

- ◆主 題：「みんなで生きよう インド『アーシャビディアレ』(希望学校)のおともだちと共に、アフガニスタンのおともだちと共に、日本聾話学校のおともだちと共に、鳥取子ども学園のおともだちと共に、教会の子どもたちと共に(教会学校応援セット)」
- ◆献 金 先：アーシャビディアレ(インド・アラハバード)、NPO『燈台』アフガン難民救援協力金、日本聾話学校、鳥取子ども学園
- ◆献金目標：1,200万円
- ◆期 間：2009年12月1日? 2010年3月31日
- ◆送 金 先：〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-31 日本基督教団教育委員会 クリスマス献金係 振替「00150-8-27638」 03-3202-0544

社会事業奨励日メッセージ

日本における社会福祉の根拠となるものは日本国憲法第25条です。「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。」

また「福祉六法」と呼ばれる法が定められており、老人福祉法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、生活保護法、児童福祉法、母子及び寡婦福祉法があります。それに老人保健法と社会福祉法を加えて「福祉八法」と呼ぶこともありま

すが、憲法に基づいて社会福祉を支えるものとなつています。社会福祉事業は、社会福祉法2条で定められていて、その内容は多岐にわたり、細部にいたるまで触れられています。

ところがそのような中でも、社会福祉事業にすべての人々が満足しているわけではありませぬ。様々な分野に目が届き、行政の支援もあるが、それが必要なレベルに達していません。制度は整っていても心がこもっていません。個別の福祉内容や個別の施設について、いつも不満が存在します。その不満がたとえ全体の中では少数であっても、その制度や施設を利用

する人々にとっては重大なことです。社会福祉事業にたずさわる者にとっては、日々改善の努力をしていくことが課題です。

日本基督教団は、社会活動基本方針に「教会と社会福祉事業との相互理解と協力を推進する」と謳い、12月1日曜日を「キリスト教社会事業を覚えて祈る日」と定めています。十分に光の当たっていないところには、さらに光を当てようとして、わたしたちの仲間がいます。継続が大事な福祉を、心をこめてこれからも続けようという努力している仲間がいます。特に心のこもった福祉を实践しようという心がけを、わたしたちの日本社会に

社会福祉が体系的に入ってきたのは、プロテスタントのキリスト教が伝えられてからでした。また、心のこもった福祉を实践しようという心がけも、キリスト教社会福祉事業でした。祈りをあわせて、支えたいと願っています。

2009年12月6日

第36総会期日本基督教団社会委員会委員 釜士達雄

お知らせ

「教師検定試験受験の手引き」が出来ました。これまでのCコースの手引書を大幅に改訂し、補教師試験AB受験者、正教師試験受験者も対象としました。一冊2000円です。問い合わせは、電話03-3202-10546、教師検定委員会までお願いします。

事務局報

教師異動
福岡文学院大学
辞教「牧村元太郎
宮田 就主 牧村元太郎
大月新生 就担船戸良隆
遺愛女子中学・高校
辞教「坂本かおり
富坂キリスト教センター
就教岡田 仁
茅ヶ崎香川辞主船窪 健
就代西田直樹
香美 就代野村義和
就主野村義和
出町 就主佐野 治
就代小宮山剛
教師隠退
多芸正之 吉岡誠人
教師改姓
河口かおり 坂本かおり
教会通信先変更
三芳 逗子市山根3-2-1
8 中山様方
伝道所所在地変更
調布柴崎 調布市布田4-1
7-8-103
教会合併
大館・花輪 教会名・大館

お詫び・訂正
4685号の訂正・お詫び欄のお名前、「小栗善忠」は「小栗善忠」(2箇所)に、お詫びして訂正いたします。

献身のとき

NOOSHIN KENSHIN No.10

執り成しの祈りと献身

白 正 煥 (用賀教会牧師)

祈り会、その時いつもと変わらず、それぞれの祈り主題を出し合い、それを皆で祈った後、個々の自由な祈りの時に入った。教育館の片隅の方に移動し、友だちには聞こえないように小さな声で祈っていた。その祈りの中で私は自分の口から出る言葉にびっくりし、祈りを中断した。自分の口から献身の言葉を祈りとして献げていたからである。それまで教会生活には熱心だったけど、献身して伝道者となることは一度も考えたことがなかった。そんな自分が何でこいつを祈りしているのか、全く不思議であり、驚きであった。しかし、その日以来、「献身」という思いは片時も心から離れることはなかった。

「白さんは日本が宣教地ですよ。そのために祈っていますから」という言葉を聞くようになったのは、日本に来て2年ほど経った時からであった。当時通っていた韓国人たちが集まる教会で、そう言われた。何人かの人からしばしば、でも私の心の中では「日本」という国において伝道者となる思いは一切なかった。

そもそも日本に来るきっかけになったのは、私の父母が日本で出会って結婚し、韓国に渡ったこと、在日韓国人であった母の美家が日本であり、幼い時から日本にいる叔父たちとの交流を通して、「日本」に対する漠然とした憧憬があったからである。しかし、いざ日本での生活を始めた私は2年が経つ頃には日本に對

牧師になって間もなくのことであった。夏休みを利用して韓国に一時帰省していたとき、姉からこいつを聞いた。

1970年代前半、私が幼児期を過ごしていた故郷はまだ電気が入っていない山村であった。父は、末娘がまだ生まれて間もない時、病で亡くなり、母一人で農業をしながら5人の子どもたちを育てていた。その家に一人の女性の親戚が泊まりに来た。彼女はキリスト者であった。翌朝、姉が目覚ましたら、その親戚は一つの部屋で雑魚寝していた子どもたちを見ながら涙声で執り成しの祈りを祈っていたそうだ。この家族に日用の糧を与えてください、またこの子どもたちの中から主の僕が生まれますように、と。

姉は牧師になった姿を見て、長年忘れていたあの時の情景がふと浮かんで来たのである。

私が自らの言葉で献身の祈りを献げたのは高校2年生の冬休みの時であった。高校生会のリーダーをしていた私は、指導先生の助言もあって、同学年の仲間たちとほぼ毎週、土曜日の夜に教会で祈り会を持っていた。そんなある日の



09年8月箱根にて家族と一緒に

出版局ニュース

http://www.bpc.or.jp

★新刊から
『キリストこそ我が救いー日本伝道150年の歩み』
日本基督教団日本伝道一五〇年記念行事準備委員会編 1959年の宣教100年から50年間を教団はどう歩んだのか。日本伝道に大きな足跡を刻むキリスト教学校と社会福祉事業の歩みとは。歴史を振り返り、日本伝道200年に向かつて進むべき道を探る。
*2730円

『ハガルとサラ、その子どもたちーユダヤ教、キリスト教、イスラム教の対話への道』Ph・トリプル／L・M・ラッセル編著 川久子訳 ハガルとサラ、そしてイサクとイシユマエルの物語を、聖書学、ユダヤ教、イスラム教、教父学などの立場から考察。フェミニストの視点で、三宗教間の相互理解と調和への道を模索。*6300円

CD『ガリラヤの風が吹く丘でー菅英三子「讚美歌21」を歌う』ソプラノ／菅英三子 伴奏／オルガン・今井奈緒子他 宗教曲やオペラに国際的に活躍するソプラノ歌手が心を込めて歌うソロ・アルバム。歌い継がれてきた賛美歌、現代の賛美歌などポピュラーな賛美歌で献げる、神への静謐な感謝の祈り。*2940円

★好評発売中
CD付ブック『三浦綾子ー信仰と文学』三浦綾子著 (TOMOセレクト) 40年 にわたり「信徒の友」に寄せられた記事を精選・再録。講演CD付。没後10年企画。*1890円

CD付ブック『そして僕は、今日も歌おう。陣内大蔵』著・歌 ミュージシャンにして牧師の著者の心温まるエッセイと演奏。アメリカング・グレース他5曲を収録。*2100円

クリスマス絵本『パプーシユカのおくりもの』サンドラ・アン・ホーン文／フィナー・ファタール絵。さわともえ訳。パプーシユカはやさしいおばあさん。新しい王様の誕生の祝いに贈り物を持って出かけたのですが…… *1575円

『さんびかものがたり』この聖き夜にーアドヴェンとトクリスマスの歌『川端純四郎』著 誰しもが口ずさむクリスマス賛美歌に秘められた、知られざるエピソード。*2520円

★12月上旬発売予定
PCソフト『ナルドの壺ー便利な教会会計ソフト』教会で実際に使用しながら開発された教会会計専用ソフト。会計全般、献金、教員名簿、出席管理などの他、教団提出用C表も自動作成。エクセル搭載パソコンで動作(WindowsXP、Vista7対応。Mac非対応)。*21,000円(初期サポート希望の場合は別途10,500円)。(ご注文は、直接出版局営業課へ。03-3204-0422)

★委託出版のご案内
エッセイ集、説教集などの制作を承っております。ご相談は出版局総務課へ。

【価格は税込です】

ひととき

大橋 祐治さん
1934年生まれ。75歳。
非暴力平和隊・日本理事。
富士見丘教会員。CS校長。
左ノ教会学校の子もたち



神の子と呼ばれる道

私の第2の人生に神は2つのことを備えて下さった。一つは教会生活に戻る道、もう一つは平和へのやさやかな貢献である。

私は3代目のクリスマンとして、高校2年の時、親友の牧師の子息と一緒に受洗した。しかし、社会人となってからは教会生活から足が遠のき、バプティズムをはじめ海外生活の合間に一時帰国で帰郷の際、「教会に行きなさい」と優しく諭す母の親孝行として、母の背を押して教会に行く程度であった。

1989年、母が召天した時、私はシカゴに赴任していた。たまたま当地で開催されたギデオンの国際大会に、父は母の遺影を持って参加した。母の死はいわば突然であったのに、父は「神のなされたいことは皆その時になつて美しい」と言って神を賛美した。この時の私は父の気持ちを理解することができなかったが、今は漸く両親の信仰を継承しているとの自覚を持っている。

『平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。』

「エミちゃんも、今度から礼拝当番、やってね」と言つと、いつものように笑顔で頷いてくれた。知的障害があるエミちゃんは、3年前に受洗した。毎週の礼拝に出席しており、教会の一員になってもらいましょと役員会で承認したのである。教会に出席する前は、教員が運営するグループホームに入居していた。教会から離れており、礼拝に出席できなかったが、牧師が何かと訪問していたので、神様にお祈りする姿勢は持っていた。そのグループホームが閉鎖されたので、教会の近くにある受付と席上献金を担当する。順次の聖句は実に涙が出るほどに有難い御言葉である。神がそう呼んで下さる。人にそう呼ばれるか否かはさて重要ではない。生涯を平和活動に捧げたあるクリスマンの言葉である。私は8年前に、国際NGO「NONVIOLENT PACE FORCE」(非暴力平和隊)に先立ち、日本で設立された「非暴力平和隊・日本」の創立メンバーとなった。

非暴力活動は、ガンディーの「平和隊」の理念を引き継ぎ、アメリカでキング牧師の公民権運動を支えた理念である。非暴力平和隊は更に、政治的立場を取らないとの理念を持つ。和解による紛争の防止と解決に徹し、紛争地域の非暴力平和活動家を支援する。現在、スリランカとミャンマーで活動中である。

非暴力平和隊のメンバーにはキリスト者が多い。勿論、日本では仏教徒もいるが、非暴力で平和を実現しようという目標で皆が結ばれている。非暴力平和の実現への道は、主イエスの教えられた道である。私は、祈りつつ、この道を歩み続けたい。

礼拝当番一考

「エミちゃんも、今度から礼拝当番、やってね」と言つと、いつものように笑顔で頷いてくれた。知的障害があるエミちゃんは、3年前に受洗した。毎週の礼拝に出席しており、教会の一員になってもらいましょと役員会で承認したのである。教会に出席する前は、教員が運営するグループホームに入居していた。教会から離れており、礼拝に出席できなかったが、牧師が何かと訪問していたので、神様にお祈りする姿勢は持っていた。そのグループホームが閉鎖されたので、教会の近くにある受付と席上献金を担当する。順次の聖句は実に涙が出るほどに有難い御言葉である。神がそう呼んで下さる。人にそう呼ばれるか否かはさて重要ではない。生涯を平和活動に捧げたあるクリスマンの言葉である。私は8年前に、国際NGO「NONVIOLENT PACE FORCE」(非暴力平和隊)に先立ち、日本で設立された「非暴力平和隊・日本」の創立メンバーとなった。

非暴力活動は、ガンディーの「平和隊」の理念を引き継ぎ、アメリカでキング牧師の公民権運動を支えた理念である。非暴力平和隊は更に、政治的立場を取らないとの理念を持つ。和解による紛争の防止と解決に徹し、紛争地域の非暴力平和活動家を支援する。現在、スリランカとミャンマーで活動中である。

非暴力平和隊のメンバーにはキリスト者が多い。勿論、日本では仏教徒もいるが、非暴力で平和を実現しようという目標で皆が結ばれている。非暴力平和の実現への道は、主イエスの教えられた道である。私は、祈りつつ、この道を歩み続けたい。

(教団書記 鈴木伸治)